

東京都江戸東京博物館外 6 施設 指定管理者評価委員会（ホール部会）

令和 6 年 8 月 8 日（木）

都庁第二本庁舎南側31階 特別会議室27

午後 3 時 01 分開会

金山委員長：それでは、時間になりましたので、始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまから、令和 5 年度東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会（ホール部会）を開会いたします。

私は、本委員会の委員長を務めさせていただきます、法政大学の金山でございます。

また、本部会の部会長については、「東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会設置要綱」第 6 条の 3 により、東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会委員長である私が務めさせていただきます。

スムーズな議事進行に御協力賜りますようお願いいたします。

それでは、初めに、東京都生活文化スポーツ局文化施設・連携推進担当部長の富岡部長より御挨拶があります。よろしくお願いいたします。

富岡部長：富岡でございます。

本日は、皆様大変お暑い中御出席いただきまして、どうもありがとうございます。

今回も指定管理者による管理運営が適切に行われているかどうかということで、毎年指定管理施設の評価をお願いしているところでございます。

文化施設につきましては皆様御承知のとおり、都の政策との連動性、それから管理運営の特殊性ということで、政策連携団体ということで位置づけております、東京都歴史文化財団を指定管理者といたしまして、指定管理期間が令和 3 年度から 8 年度まで、ちょうど今回はその中間の 3 年目に当たる昨年度、令和 5 年度分の評価をいただくということになっております。

本日も皆様ぜひ忌憚のない御意見もしくは御助言などございましたら、ぜひ御意見いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

金山委員長：本委員会は専門分野ごとに対象施設を分けて部会を設置しており、本部会ではホールについての評価の御審議をしていただきます。

なお、評価委員会と美術館・博物館の評価の審議は、昨日 8 月 7 日水曜日に終了しております。

それでは、ホール部会の評価委員の皆様を紹介させていただきます。

芸術文化観光専門職大学講師、これはそれぞれ自己紹介になりますか。はい。

井原委員、前田委員、自己紹介を一言お願いいたします。

井原委員：芸術文化観光専門職大学の井原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

前田委員：紀伊國屋書店事業部の前田と申します。新宿にございます紀伊國屋ホールと紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA という民間の 2 劇場を管理運営しております。今日はよろしくお願いいたします。

金山委員長：名古委員、松本委員、お願いいたします。

名古委員：JTBパブリッシングソリューション事業本部の名古と申します。今年もよろ

しくお願いいたします。

松本委員：公認会計士の松本でございます。よろしくお願いいたします。

金山委員長：昨年に続くメンバーということになりますので、どうぞよろしく今年もお願いいたします。

それでは、まずお手元の書類の確認をお願いいたします。これは事務局のほうからということになりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

知花課長：それでは、お手元の書類の確認をさせていただければと思います。

次第の一番下に配布資料一覧がございますけれども、書面にて資料1、2、3、資料4の冊子をお配りをしております。資料1「令和5年度東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価 一次評価総括表（ホール）」、資料2「令和5年度東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価 二次評価（案）（ホール）」、資料3「各館 令和5年度 目標達成シート（ホール）」、資料4は冊子で、「令和4年度事業実績報告 財務諸表等」となっております。

資料5以降はタブレットにて御用意をさせていただいております。資料5「令和5年度東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者評価委員会 委員名簿」、資料6「東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者評価委員会設置要綱」、参考資料1「令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者評価委員会 特記事項、今後取り組むべき点(ホール)」、参考資料2「財務の状況及び施設サービスの実施状況調査 評価の視点について」、以上でございます。

また、タブレットの操作に当たって御不明点等ございましたら、事務局までお問合せをいただければと思います。

指定管理者評価委員会について簡単に御説明させていただければと思います。総務局総務部グループ経営戦略課が定めております「東京都指定管理者制度に関する指針」におきまして、委員会を原則公開で開催することが定められております。これを受けまして、「東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者評価委員会設置要綱」第10におきまして、公開について定めておりまして、これに基づきまして本委員会を公開で開催をしております。

配布資料及び議事録についても委員会終了後、東京都のホームページで公開をいたします。続きまして、評価に関する説明をさせていただきます。評価の流れとしましては、まず東京都で一次評価を行いまして、その評価も参考に、本委員会にて審議をいただきまして二次評価を決定していただきます。今後の予定ですが、本委員会で決定いただいた評価を基に、8月中旬をめどに東京都にて最終的な評価を決定いたしまして、9月中旬に令和5年度の都立文化施設指定管理者評価としまして、プレス発表及びホームページにおける公表を予定しております。

あわせて、評価の内容を指定管理者に通知しまして、文化施設の管理運営の改善を図ってまいります。

では、まず一次評価について説明をさせていただきます。

資料1「令和5年度東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価一次評価総括表」を御覧いただければと思います。

評価方法につきましては、評価表にございます確認項目について、指定管理者からの報告書、日常の実地検査、ヒアリング等に基づきまして、計画どおりに事業が実施されているかという点を主眼に、水準を上回る、水準どおり、水準を下回る、3段階で評価しまして、その合計点を算出いたします。そして、全項目において水準どおりの評価を受けた場合の合計点を標準点としまして合計点を算出し、一次評価結果を決定いたします。

評価結果は、「S」「A」「B」「C」の4段階となっております。具体的には、合計点が標準点の1.33倍以上で「S」、1.25倍以上1.33倍未満で「A」、0.88倍以下で「C」、それ以外で「B」というふうに評価をしております。

確認項目の設定につきましては、施設の設置目的や指定管理者の果たすべき役割などを踏まえ、各施設の管理運営基準や事業計画に基づき、最も効果的に管理運営状況の評価できる確認項目を設定しております。

それぞれの確認項目に関する標準水準についても、同じく管理運営基準や事業計画等を根拠に設定をしております。

また、本日の評価対象施設については、令和2年度に指定管理者を匿名選定しておりますが、匿名要件は問題なく継続していることを確認しております。

一次評価結果表につきましては、東京文化会館がA、東京芸術劇場がBとなっております。詳細の評価基準につきましては事前に御説明させていただいたとおりでございまして、割愛させていただければと思います。

続きまして、二次評価につきましては項目の評価が一次評価と同様、水準を上回る、水準どおり、水準を下回るの3段階で評価いただきます。

二次評価結果は一次評価と同様、「S」「A」「B」「C」の4段階で評価いただくこととなっております。

二次評価の進め方についてですが、委員の皆様から事前に提出いただいた評価を集約したものが資料2でございます。委員の皆様の評価が分かれた場合、より多かった評価を記載し、異なる評価を括弧書きで併記をさせていただいております。

この後に行います各施設のプレゼンテーション、質疑応答、松本専門委員からの財務状況説明、名古屋専門委員からの施設サービス実施状況説明等を参考に、この二次評価案を検討いただき、評価を決定していただければと存じます。

なお、二次評価案は、財務の状況については松本専門委員、施設サービスの実施状況については名古屋専門委員を含め、皆様の評価を集約しております。

また、改善が望まれる点につきまして補足をさせていただきます。先ほど申し上げました東京都指定管理者制度に関する指針におきまして、改善が必要な場合及び改善が望まれる場合は指定管理者に対し改善策の策定と速やかな実施を指示する。指定管理者の取組内容を確認、公表し、その結果を次年度の評価委員会で報告するとされております。

事務局からの説明は以上でございます。

金山委員長：どうもありがとうございました。

それでは、議事のほうに移らせていただきます。

なお、二次評価の決定については委員の皆様のご合議により決定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

そのほか、先ほどの事務局からの説明について、何か御質問ございますか。よろしいですか。

はい、どうもありがとうございます。

それでは、次第に従いまして、プレゼンテーション及び質疑応答に移ります。

(各館・歴史文化財団事務局職員 入室)

金山委員長：各館及び歴史文化財団本部のほうから、自己紹介をお願いいたします。

戸谷副館長：東京文化会館副館長 戸谷と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

梶事業企画課長：同じく事業企画課長 梶と申します。よろしくをお願いいたします。

大橋営業推進担当課長：同じく営業推進担当課長 大橋と申します。よろしくをお願いいたします。

鈴木副館長：東京芸術劇場副館長 鈴木でございます。よろしくをお願いいたします。

本田管理課長：同じく管理課長 本田と申します。よろしくをお願いいたします。

大島運営担当課長：東京芸術劇場運営担当課長 大島と申します。よろしくをお願いいたします。

内藤制作担当課長：同じく制作担当課長 内藤と申します。よろしくをお願いいたします。

藤生総務部長：財団本部総務部長藤生でございます。よろしくをお願いいたします。

工藤企画部長：同じく企画部長 工藤でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

田代総務課長：同じく本部総務課長 田代と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

佐々木企画課長：企画課長 佐々木です。よろしくお願ひします。

宇賀神財務課長：財務課長 宇賀神と申します。よろしくをお願いいたします。

飯塚人事担当課長：人事担当課長 飯塚です。よろしくをお願いいたします。

紹介は以上となります。

金山委員長：どうもありがとうございました。

それでは、各館のプレゼンテーションを始めたいと思います。各館5分程度で要領よく説明をお願いいたします。なお、プレゼンテーションの最後に昨年度の評価委員会で今後取り組むべき点とした事項について、対応状況等を御説明してください。対応状況の説明は二、三分程度ということでお願いいたします。この今後取り組むべき点については、タブレット端末にございます参考資料1、特記事項、今後取り組むべき点を御参照ください。

事務局のほうで途中時間をお知らせするためにベルを鳴らさせていただきます。所定時間が経過しましたら1回、3分超過しますと2回、それ以上かかりまして5分超過しまし

たら3回鳴らさせていただきます。時間内での説明をお願いいたします。

それでは、東京文化会館、戸谷副館長から、令和5年度の施設運営についてプレゼンテーションを行っていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

戸谷副館長：それでは、戸谷から報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料3、令和5年度目標達成シートに沿って御説明申し上げます。

館のミッションを踏まえた令和5年度における特徴的な取組でございます。

まず、表の中ほど上段の1番、音楽・舞台芸術の創造・発信でございます。まず、『曾根崎心中』、人形俳優の平常の新作として創作初演をいたしました。江戸時代に活躍した人形浄瑠璃作家、近松門左衛門の代表作を人形劇俳優、平常が脚本、演出、人形操演を手掛け、音楽はチェリストの宮田大による選曲です。現代人形劇とクラシック音楽の持つ豊かな表現力によって、日本古典の名作を現代の人々も共感しやすい形にしています。新しいコラボに挑戦し、チケットは完売するなど、高評価をいただいております。

次に、『かぐや』でございます。70歳で急逝いたしましたフィンランド出身の人気現代音楽作曲家、サーリアホを記念いたしました国際共同委嘱作品やサーリアホの作品を取り上げる前半に引き続きまして、後半は日本を代表するダンサー森山開次と作曲家ジェセフイーヌ・スティーヴンソンのコラボレーションによる舞台作品『かぐや』を世界初演し、話題を呼びました。これは竹取物語と与謝野晶子の短歌からインスピレーションを得て創作したものでございます。読売新聞等でのレビュー掲載でも高評価をいただいております。

また、東京文化会館、オペラBOX「Help! Help! グロボリンクスだ! ~エイリアン襲来!!~」、シアターデビュープログラムの小学生を対象といたしました音楽劇『シミグダリ氏または麦粉の殿』、中高生向けの『ラヴェル最期の日々』を新制作し、大きな話題を呼びました。

次に、2点目、新進音楽家等の専門人材の育成・支援でございます。第21回を迎えた東京音楽コンクールは、弦楽部門、ピアノ部門、木管部門を開催しております。入国規制がなくなったことから、海外からの申込みが回復しております。合計379人が応募、最終的に10名が入賞、入選いたしました。二次予選以降は公開で約2,800人の聴衆が立ち会っております。また、令和5年度の各事業へのコンクール入賞者の起用数は延べ204名となり、育成型コンクールとしての矜持を示しております。

カーザ・ダ・ムジカの来日時、これは7月と12月でございますが、これを含めて通年でワークショップリーダーの育成プログラムを実施しております。ポルトガルへの研修も実施いたしました。一部ワークショップでは東京音楽コンクール入賞者も交えたプログラムも実施し、育成型にふさわしい構築をしております。

次に、3点目でございます。次世代への音楽文化の継承と教育普及、社会包摂・社会的課題の解決に向けた取組でございます。子供向け公演、夏休み子ども音楽会《上野の森文化探検》は大ホールでオーケストラ公演を実施しております。都内小中学校及び近隣の私立小中学校へチラシを配布するなど広報活動を行った結果、2,186名の入場者となり盛況で

ありました。また、周辺施設へのパスポート参加者数も延べ3,067名に達しております。

ワークショップ及びアウトリーチでは、高品質で生の音楽体験を広く提供することができております。一般公開するワークショップ、国際連携企画であります。6,599名の参加者がございました。

コンビビアル・プロジェクトでは、リラックス・パフォーマンスを大ホールでオーケストラ公演として実施しております。また、複数の都内特別支援学校にて国内トップクラスの楽団によるフルオーケストラ公演を実施するなど、特別支援学校へのアウトリーチ、社会福祉施設へのアウトリーチなども実施してございます。

4点目、質の高い鑑賞機会の提供でございます。稼働率は大ホール94.0%、小ホール85.2%まで回復し、基準値、目標値とも上回っております。大ホールは国際情勢等の影響により、一部の海外招聘中止や公演内容の変更、日程の縮小などが発生しております。公演中止や日程縮小に伴う空き日につきましては、国内の演奏団体や企画団体と調整を図り、公演実施につなげ、稼働率維持に努めてございます。

オペラではパレルモマッシモ劇場、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場、バレエでは英国ロイヤルバレエ、ル・グランガラ、パリ・オペラ座バレエなどの公演が開催され、海外の最高水準の舞台芸術鑑賞の場となっております。

5番目、ホスピタリティの充実と安全対策の強化でございます。新型コロナウイルスの5類移行後は消毒液の設置等基本的な感染症対策を継続しながら、バーカウンター等を通常営業に戻すなど、利用者・来館者の安全・安心を確保しつつ、利便性の向上を図ってございます。

手話言語条例の施行を受け、視覚・聴覚障害者の情報サポートを推進するため、緊急時サインや触知図の作成を開始、バリアフリーマップのテキスト化など、アクセシビリティの向上を図ってございます。

以上が事業面の報告でございます。

引き続きまして、事業実施の課題といたしまして、参考資料1にございますように、先生方から課題として挙げられた事項への対応につきまして説明させていただきます。

2件いただいております。1件目は都の改修計画に基づき、よりよい施設として建物の維持管理を行っていくことを期待するという御指摘でございます。

当館は会館63年目を迎えた施設であります。日々の施設状況の管理に留意し、より安全・安心な施設を維持するように努めてございます。

また、月2回の保守点検日を確保し、定期点検の報告から施設設備の異常や劣化の状況を把握し、迅速に修繕を実施することで日々の公演を滞りなく開催し、来場者の安全を確保してございます。

今後予定される大規模改修に向けて、東京都の文化振興部の施設担当、財務局建築保全部等と連携し、現場調査、ヒアリングへの協力のほか、設計に関する会議の参加など、積極的に協議に参画してございます。

次に、2点目の御意見いただいております。全国の文化施設を牽引する館としての役割を期待するというものでございます。既に御説明した内容と一部重複するところがございますが、まず貸館事業では全国に抜きんでた世界最高水準のオペラやバレエの公演、そして東京春音楽祭等の日本を牽引する取組が継続して実現しております。

一方、自主事業につきましては、海外の劇場等との国際共同委嘱による『かぐや』の上演ですとか、新進音楽家によるコンサート、東京文化会館ミュージックワークショップ等の作品を都内外の他の文化施設との連携による実施等、劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業に採択された全国11の施設の1つとしての役割を果たしてございます。

私からの報告は以上でございます。

ありがとうございました。

金山委員長：どうもありがとうございました。

今後取り組むべき点についての御回答もいただいたところです。ただいまのプレゼンについて御質問はございますか。質問は会議の進行上、5分程度でお願いいたします。いかがでしょうか。

前田委員、お願いします。

前田委員：紀伊國屋の前田です。

御説明ありがとうございます。

まずは昨年コロナの分類見直し以降、ようやく通常の活動に向けて再開できてきたのかなと思います。1年間お疲れさまでございます。

その中で、主催公演『曾根崎心中』、『かぐや』など、非常に質の高い評価を得られる公演を実施されており、素晴らしい活動だなと思って聞いておりました。

また、施設改修に向けても今後文化振興部及び財務局の方々といろいろと相談しながらということで、これも引き続き、お客様の安全・安心を確保しながら、かつ運営の方々により便利になる、またそればかりでなく実際に劇場を御利用になるお客様、そして御来場者様にとってよりよい劇場になるように改修していただけるといいなと思います。

そういった中で、この1年間、本当に素晴らしい活動だと思い、特に大きな問題はないのかなと思いますが、逆にお伺いしたいのは、運営をしていく中で御苦労されている点であったりとか、今後に向けての課題についてもしお考えがありましたらお伺いできればと思います。

戸谷副館長：施設運営面につきまして、副館長の戸谷から御報告いたします。

申し上げましたとおり、開館以来63年目の施設ということで、老朽化は実は待ったなしの状況で、正直これだけの貸館の回転率を維持しているのかという思いもあるんですが、何とかやり繰りして、休館日の、休館日と言っておりますが、実は施設点検日でございます。この日に工事を充てたり、普段貸館が入っているときはできないようなことをやって、安全・安心を確保するように尽力しております。

中でも、最近の大雨による雨漏りなどはやはり大規模改修を待たずにやっている部分も

ございます。そのほか各設備に故障等があってもお客様に御迷惑のかからないように迅速な対応をして安全・安心な御利用をいただくように苦勞してございます。

また、事業面につきましては梶のほうから報告いたします。

梶事業企画課長：事業について、梶のほうから御報告いたします。

コロナが5類に移行して以降は、お客様同士のマスク着用に関するトラブルもなくなりまして、大変お客様の状況もよくなったかなと思っております。

一方で、やはりコロナの際に御高齢の方がたくさんいらっしゃらなくなったという状況はなかなかクラシックの状況の中では難しいところがまだまだあるかなという感じがしております。

コアなファンですとか、すごくハイレベルの公演に関してはあまり問題がないんですけども、やはり若いアーティストの支援をするというような層につきましてはなかなか戻っていらっしゃらないかなというところがありまして、そこはこれからも引き続き努力をするところかなと思っております。

以上です。

前田委員：ありがとうございます。

非常に海外のアーティストからも人気のある劇場だと思えますし、また質の高い海外からの招聘公演を行うことは、そういった公演の鑑賞機会を提供することで若手のアーティストたちへの育成にもなると思えますので、今後も引き続き素晴らしい公演の上演をしていただければと思います。

ありがとうございます。

金山委員長：どうもありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。

続きまして、東京芸術劇場、鈴木副館長、どうぞよろしく願いいたします。

鈴木副館長：それでは、東京芸術劇場の令和5年度の事業につきまして御説明をさせていただきます。

お手元にある東京芸術劇場の令和5年度目標達成シートを御覧になりながら聞いていただければというふうに思います。

令和5年度は、5月にコロナ感染症法上の位置づけが2類から5類になりまして、様々な活動が少しずつ元に戻り、年が明けた頃に集客も以前のような活発な状況が見えてまいりました。

また、パワハラ防止法が義務化されたということがありまして、それを受けて芸術劇場ではハラスメントガイドラインを定めまして、5月から運用を開始しました。職員だけではなく、委託会社はじめ創作現場に関わる全ての人たちが安心して仕事ができる環境を整えました。

自主事業の予算面では、文化庁の劇場・音楽堂の機能強化推進事業総合支援が令和5年度不採択となりまして、急遽収支予算を削減してのスタートとなりましたが、執行管理の

精度を高めまして取り組んだ結果、何とか事業全てを計画に沿って実施することができまして、予算も達成することができました。

このような状況の中で、館のミッションを達成すべく事業を推進してまいりましたが、特に3点について御評価いただきたいと考えております。

まず1点目が、音楽・舞台芸術表現の可能性を探求する劇場として、良質な音楽、舞台芸術作品を国内外に創造・発信。そして、国際的な舞台芸術の拠点となる劇場として、国内外の劇場・音楽堂等との交流を活発に行ったということでございます。

達成目標の1番、2番に当たる部分でございます。

音楽事業では、7年目の開催となりました世界の新しい音を紹介するボンクリフェス、野村萬斎演出の『こうもり』、実力あるアーティストの競演という企画性が評価されましたV S公演、演劇事業では木ノ下歌舞伎の『勸進帳』、芸劇初のミュージカル作品『天翔ける風に』、それから性的マイノリティを通じて社会を描いた大長編翻訳劇『インヘリタンス』の上演など、芸劇の制作者がアーティストの表現を最大限に引き出しまして、新たな作品を創造し、発信いたしました。

また、22年ぶりの太陽劇団の来日公演を実現しまして、年末回顧などにも多数掲載をされ、大成功を収めることができました。他都市劇場作品の上演は計23回、北九州芸術劇場、穂の国とよはし芸術劇場、彩の国さいたま芸術劇場の作品を紹介いたしました。

オペラは全国3か所と共同制作、そして芸劇制作演劇公演の地方上演回数は計5本、51回に上りました。

また、フィルハーモニードパリ、それからアジアの4都市の劇場連携による教育プログラムを実施するなど、国内外の劇場・音楽堂との交流を活発に行いました。

そして、2番目でございます、誰もが芸術文化に身近に触れられる劇場を目指し、積極的に活動をいたしました。こちらは達成目標の4番、5番、6番、7番に当たるところでございます。

ファミリー向けの取組として、サラダ音楽祭、TACT FESTIVALを通して多彩で豊富なプログラムを実施しまして、コロナ5類となりまして多くのファミリー層が来場しました。『エブリ・ブリリアント・シング』という作品は29.1%が子供・若者の参加でございました。それから、0才から聴こう!!4才から聴こう!! 春休みオーケストラコンサートは入場者数もコロナ前以上の実績となりまして、満足度も100%という結果を残しました。

それから、劇場ツアーの初めての来館者が13.3%、満足度も97.4%と、芸術文化を身近にしていく取組を推進いたしました。

年齢、障害の有無、国籍等属性を問わず、誰もが芸術文化に触れることで、高齢化や共生社会など、東京の社会課題解決に向けたクリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーを推進いたしました。インクルーシブダンスの『東京のはら表現部』、それからインクルーシブ合唱団の『ホワイトハンドコーラス』のワークショップはほぼ毎週実施しまして、

また鑑賞サポートは26回、『勸進帳』の地方公演で芸劇職員の指導の下、鑑賞サポートを各地で実施いたしました。幅広い層に訴求するプログラムを用意する戦略的貸館と首都圏に数多く存在する実力ある劇団や楽団・制作団体との共催・提携公演を実施することで、多くの人に一流の文化・芸術を届けました。

それから、56回目を迎えた都民芸術フェスティバルですね、こちらにも音楽・演劇・舞踊・伝統芸能と多ジャンルを低料金で提供しまして、若手劇団として当館が支援している提携公演として行いましたJACROWの「『闇の将軍』四部作」ですね、これが第58回の紀伊國屋演劇賞、団体賞を受賞するなど、幅広い一流の芸術文化を提供いたしました。

そして、地域団体との共催で地元の事業に協力をしたり、劇場を複合的に利用したフェスティバル開催時にはアトリウム、ロワー広場から劇場前広場、グローバルリングへと連携した事業展開を行うなど、劇場を地域に開き、にぎわいを創出いたしました。

X（旧Twitter）フォロワー数10万924と全国公共劇場の中でも最上位を堅持しております。また、新たに公式インスタグラムも開始しまして、事業全体の効果的な広報展開を行って、劇場のプレゼンスを向上いたしました。

そして、3点目、若手アーティストや芸術の担い手を育成し、ともに創造・発信を行う劇場としての役割を果たしました。こちらは達成目標の3番に当たる部分でございます。10年目となるオーケストラ・アカデミーからは10人が卒団して、芸劇自主事業には計18名が出演、仙台フィルに1名が就職、若手音楽家が巣立っています。そして、芸劇eye事業で若手劇団の参加数は5団体、演劇道場生は芸劇自主事業に計17名が出演しまして、若手劇団俳優の養成事業も充実させております。

そして、アーツアカデミーからは、制作者として公共劇場に1名が就職いたしました。若手アーティスト、若手制作人材の育成を推進しまして、ともに創造活動を行いました。

続きまして、事業実施に当たっての課題でございます。令和4年度指定管理者評価において課題として挙げられました事項を踏まえて、令和5年度における取組について御説明させていただきます。

2点ありまして、まず1点目、国際的な創造・発信の中核を担う劇場として、中心的な存在となることを期待するという点でございます。先ほど1点目で説明したとおり、良質な音楽、舞台芸術作品を自ら創造、国内外に発信し、国際的な舞台芸術の拠点となる劇場として国内外の劇場・音楽堂との交流を活発に行いまして、引き続きこういったことを継続していきたいと考えております。

そのために舞台制作、舞台技術が令和6年度から専門職種に位置づけられたということもありまして、それを機にさらに職員の専門性を高めまして、これまで培ったネットワークを生かして国際発信、国際交流をしていきたいと考えております。

また、海外へのPRにも力を入れまして、インバウンド客の誘致にも取り組んでいきたいと思っております。

そして、2点目、公演の雰囲気をもっと味わえるように、開演前や終演後も楽しめる公演

関連企画等に取り組むことを期待するという点についてでございます。館内の店舗と連携しまして、公演に関連したコラボメニューというのをできるだけ多くの事業で実施するようにしております、それを提供して多くのお客様に公演前後に楽しんでいただくという取組をいたしました。これは店舗の売上増にもつながっているという相乗効果を上げております。

以上でございます。

金山委員長：どうもありがとうございました。

ただいまのプレゼンテーションにつきまして、何か御質問等はございますでしょうか。

井原委員。

井原委員：井原でございます。

多彩な事業を展開されていてすばらしいなと思います。2つ質問をさせていただきます。

まず、アーツアカデミーのこと、それから鑑賞サポートのことです。アーツアカデミーは制作者として公共劇場に1名が就職されたということですが、差し支えなければどちらに就職されたかお聞かせください。それから、その就職をされるに当たって、芸術劇場さんが何かサポートをされたのかお伺いしたく存じます。

それからもう一つは、鑑賞サポートですが、具体的にどのようなことをされたのか詳しく教えていただけたらと思います。

よろしく申し上げます。

鈴木副館長：ありがとうございます。

アーツアカデミーにつきましては、今年で12年目になりまして、令和5年度に公共劇場に就職しましたのが静岡でございます。今10年以上たちまして全国の公共劇場で何名もの、スタッフが今働いているということで、非常にその子たちの間のネットワークというのがしっかりとできていまして、今もいろいろ新しい研修生、アカデミー生が入りますと必ずどこかを訪ねて卒業生の話を聞いて、それを糧にしてというようなこともやっておりますし、困ったときに相談するというお互いにそういったネットワークもできてきているかなという状況でございます。

それから、鑑賞サポートでございますけれども、鑑賞サポートも非常に長期間、一番最初にスタートしたのが2009年でございます。そこで聴覚障害のある方には字幕機の提供というのをやっております、それから資格障害のある方には舞台説明会というのをやっております。

内藤制作担当課長：視覚障害の方に、今こういうことが行われているというのを音声ガイドで説明したりですとか、あと衣装や小道具に実際に触れていただいたり、舞台に乗っていただくみたいな形の舞台説明会というのを、お客様が入る前に客席やロビーでやらせていただいております。

昨年の地方公演での鑑賞サービスというのは、こういう東京では行っていることを地方の公共館もやりたいんだけど、予算を組んでもどうやっていいか分からないというこ

とがございまして、東京でやっているスタッフを地方公演の会場に派遣しまして、それでポータブル字幕機や音声ガイドを提供するサービスを行うということ、これアーツカウンシルのほうからサポートいただきまして実施することができて、大変に好評いただきました。

井原委員：これからますますサービスを利用する人が増えていくように、ぜひ続けてほしいなと思います。ありがとうございます。

鈴木副館長：ありがとうございます。

金山委員長：どうもありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

名古屋委員、お願いします。

名古屋委員：名古屋です。

インバウンド対応されているという話が出ていましたが、具体的にどういうことをされているのか教えていただければ幸いです。

鈴木副館長：まだ取り組み始めたというところなんですけれども、今いろいろな池袋インバウンド推進協力会という豊島区でやっているものもありますので、そういったところに参加しまして、そこで一緒につくっているマップとかパンフレットに東京芸術劇場の場所と、それからいろいろな内容を載せまして、一緒にPRをしたりということを行っております。

それと、今年度になるんですけれども、東京芸術祭で特別な鑑賞ツアーをつくりまして、今年木ノ下歌舞伎の『三人吉三廓初買』を上演しますので、それに合わせてゆかりの地を回るとい、両国から始まっていろいろな地を回って、最後芸劇に来て鑑賞して、それで解散というような1日のツアーをつくって今募集をしているというようなところでございます。

名古屋委員：分かりました。ありがとうございます。

金山委員長：ありがとうございます。

よろしいですか。

前田委員。

前田委員：紀伊國屋の前田です。

御説明ありがとうございます。

東京芸術劇場さんは、特に2009年から野田秀樹芸術監督に代わってから発信型の劇場に変わってきたということで、もう正に国際的な創造・発信の中核を担う劇場として本当に質の高い演劇を上演されていると思います。

また、芸劇 e y e s、e y e s p l u s においても若手から中堅の劇団をより積極的に誘致して、私のよく接するような若い演劇人たちもどこの劇場で上演したいなんていうと、やはりシアターイーストでやりたい、シアターウエストでやりたい、プレイハウスは集客はまだ難しいけれども、なんて声を聞くほどです。

そういった中で、本当に海外招聘公演から主催公演、そして若手公演、そして地域連携事業、もう驚くべきほど多岐にわたる活動をされているかと思いますが、こんなにたくさんさんの活動をされていて人間的な面でも大丈夫なのかなという心配をしています。この1年などで、もしくは僕の先ほどの質問と同じようになってしまいうんですけれども、御苦労されているようなことをちょっとお伺いしたいなということが1点と。

今後の東京芸術祭に向けて、特に海外からのインバウンドのお客様に来てもらえるためには、こういった課題があるのかなというようなことをお伺いできればと思います。

鈴木副館長：ありがとうございます。

まず、この1年間で苦労をしたことというところなんですけれども、そうですね、やはり御指摘いただいたように、設置目的として東京芸術劇場は専門劇場がたくさん、専門のホールとコンサートホールとそれから専門劇場がありますので、音楽と演劇、それから舞踊、それと歌劇ですね、その文化振興を担うということが設置目的で掲げられていますので、そのジャンルが非常に多岐にわたっていると。その中でそのジャンルの中の創造・発信プラス人材育成であるとか普及事業というのをやりますので、どうしても非常に幅広い業務になってくるかなというふうに、そこはなかなか変えることができないかなというふうに思っております。

そういう中でいかに効率的に今やるように努力はしているんですが、なかなかやはり人手については厳しい状況が続いているかなというところではございます。

そして、東京芸術祭についてですね。東京芸術祭もやはり東京芸術劇場は複合施設ですので、どうしてもフェスティバルをやる会場として非常にふさわしいということもありますし、東京芸術祭、また来年度から新しいアーティスティック・ディレクターを迎えて行うということで、改革期に今移っているというところがございます。ですので、それに向けてどう発信力を高めていくか。また、非常に今度のディレクターにつきましては海外からの注目も非常に高い方ですので、既に発表したところ、非常に期待しているというような声が届いていまして、それに応えていくということで。その点でもまた業務的には非常に大変な事業が、対応が続いていくかなというふうには考えております。

ただ、それだけ注目されるいい機会ですので、ぜひそれをうまく生かして東京芸術劇場を世界にPRしていけるようなになればいいなというふうに考えております。

前田委員：ありがとうございます。そうですね、海外の方からも非常に注目されているということで、今後芸術劇場さんに限らず、日本の舞台芸術界、特に観光の面からももう少し連携を取ることが必要になってくるのかなと思いますので、東京都及び例えば民間の旅行代理店なんかと連携しながら、そういった観光都市としてたくさんのお客さんがいらしていただけるような取組をしていただければと思います。

また一方で、チケットに関しても、これも舞台芸術界共通の問題かとは思いますが、パッと当日この公演を見たいなと思ってもなかなか海外のお客様は買うことができない状況というのがあるかと思っておりますので、そういったチケットに関する取組についても今後取り

組んでいただければと思います。

ありがとうございます。

金山委員長：どうもありがとうございました。

それでは、各館からのプレゼンはこれで終わりたいと思いますが、昨日もちよっとやっただけですけども、財団本部のほうに対しての何か御質問等がありましたらお受けしたいと思いますが、委員の皆さん方いかがでしょうか。特によろしいですか。

本部のほうから何かコメントがございましたら、一言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

藤生総務部長：総務部長の藤生でございます。

文化会館、東京芸術劇場ともに非常に多岐にわたる事業を行ってございまして、先ほど御質問もありましたが、そういった事業を組織面からもしっかりと本部として支えていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

金山委員長：よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

それでは、これでプレゼンを終了させていただきます。

各館及び財団本部の皆様方、どうもありがとうございました。

(各館・歴史文化財団事務局職員 退室)

金山委員長：それでは、ここで一度休憩とさせていただきますが、事務局、時間のほうはいかがですか。

知花課長：そうしましたら、大体10分後の16時まででお願いできればと思います。

金山委員長：では、16時ということでよろしく願いいたします。

午後 3 時52分休憩

午後 4 時00分再開

金山委員長：それでは、続きまして、各委員及び指定管理者の財務状況について、松本専門委員から御説明いただきます。

松本委員：それでは、財務状況に関して御説明申し上げたいと思います。

まず、文化会館のほうでございますが、こちらのほう昨年度収支も今年度収支も予算ではともに赤字でございましたが、先ほどもありましたとおり、経費削減努力をして黒字化をしたということで、財務状況に問題はないと言えるということで、通常の〇とさせていただきます。

続きまして、東京芸術劇場につきましてなんですけれども、指定管理料収入と受託費用収入は同額で計上されておりますので、収支には影響しないということでございますが、それ以外のところで受託事業費用と自主事業費用は期初から縮減努力をして減少したことにより黒字となりました。

自主事業収益の国庫補助金の減少が初めから見込まれていたということであり、年度当初より計画的に自主事業費用の圧縮を行うことができたということでも伺っております。受

託事業費用も同様に支出管理を行った結果、黒字化を図ったと、結論的にも黒字になったということで、評価としては通常の○ということでつけさせていただきました。

以上でございます。

金山委員長：どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、名古屋専門委員のほうから、サービス状況についてお願いいたします。

名古屋委員：まず、東京文化会館についてですが、先ほどから何度も建物の老朽化のお話が出ていますが、私も評価ではハード面はすぐに変えられるものではないので、去年から劇的に悪くなったというわけではないという意味で○としているものの、東京文化会館のトイレ問題はSNSなどでも投稿があったりするので、これはちょっと気になるなと思っております。

ただ、建築物として文化的要素がある建物なので、建て替えるときも全部壊して新しくようなことにはならないようにしてほしいと思っています。トイレに関してはSNS上でも悪いほうに話題になっていることがあるので、御報告だけはしておきます。

東京文化会館のX投稿で、【東京文化会館の建築】というタイトルをつけて上げている投稿が、本来の公演の紹介の投稿よりもずっと反応がいいんですね。なので、建物目的で来たい、見たいという来訪者が本当に多いんだなと感じています。

もう一つ、これは日本全体なのかもしれませんが、お客様の新旧交代がこれからの課題になってくるのではないかと考えています。バレエの公演はバレエのお稽古をやっているような小さなお子さんがいたり、比較的若い方から年配の方まで幅広く来ていらっしゃるように思われますが、クラシック音楽のお客様は若いお客様が少なく、演者の関係者が主な観客になっているように見受けられます。実際には夏休みの子供音楽会など取り組んでいくいらっしゃいますが、こういうことはすぐに改善されるというわけではありませぬので、若い演者を育てることに加えて、若い観客を育てることがこれから必要になってくると考えています。

東京芸術劇場に関しては、人気の俳優さんが出演する演目や、芸術的な質の高い演目があり、演者と興行主のプロモーションがすごく活発なので、施設としては、それに対してSNSではリポストさえしておけば拡散していくという仕組みが出来上がっているように見受けられています。そのリポストをすごく丁寧にされているので、すでに仕組みとして完成されていると思います。

付け加えるならば、観客の感想など観客の投稿をリポストされたら拡散力がもっと上がるだろうと思います。人気俳優さんの演目は必ず観客の方が「行ってきた」というような感想を投稿されるので、それをリポストするだけで全然拡散力が違ってくると思っています。

最後に、劇場やホールのインバウンド対策については、各館だけじゃなくて、東京都が旗振りして進めていく課題ではないかと考えています。

特に演劇や音楽鑑賞などの芸術分野に関しては、ターゲットの選定なども難しく、外国人だったら誰でもどこの国でもいいというものじゃないと思います。演目によってもターゲットは変わりますが、誘客促進という観点では、まずアジア人をターゲットにして考えていくなどでしょうか。そのうえで観劇マナーの意識醸成なども必要でしょう。先ほど東京芸術劇場から聞いたお話では、来た方にマップを配っているというお話をされていましたが、インバウンドに対する誘客促進に関しては、来日前からプロモーションをして、来日前にチケットが購入できるようにすることと、当日にもチケットが購入できるという二段構えが必要ではないかと思っています。これを推し進め類は東京都のリーダーシップがすごく必要だと思っているので、その辺を今後お願いしたいと思っています。

以上です。

金山委員長：ありがとうございました。

それでは、今の財務状況と施設サービスの状況について、質疑応答を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。まず、財務状況について御質問ございますか。

では、私のほうからよろしいですか。これ両館とも黒字ということなんですが、具体的にはどのぐらいの黒字なんですか。

松本委員：収入でいうといずれも数千万円の黒字となっています。

あと、先ほどのプレゼンでも両方ともやはり、特に文化会館のほうは老朽化が進んでいるということなので、もちろん大規模修繕については都のほうから補助が出ると思うんですけども、それだけでも多分足らずに、施設への修繕とか設備投資に回すということをとくさんやっていると、この黒字というのが多分すぐなくなっちゃうだろうと。名古屋先生のほうからもお話がありましたとおり、やはり施設ですね、その辺の投資に回していただければという感じでございます。

金山委員長：これはコロナの時期があった。そのときには激減したわけですが、コロナ前のその収支の状況と照らし合わせたときに、いかがなんですか。

松本委員：先ほども文化会館のほうでもコロナ前の状況ということで、前々年度ですね、今回の審議対象の前年度になりますけれども、のときはもう赤字でしたので、要するに赤字から黒字へ転換したぐらいのイメージですね。だから、やっぱりおっしゃるとおり、コロナですごい苦しんで、経費を節減して、コロナ後で戻ってきたので、結果的に黒字が出たというその程度。

金山委員長：ありがとうございます。

よろしいですか、財務状況について御質問よろしいですか。

それでは、サービス状況について、御質問ございますか。

これ例えばインバウンドということでおっしゃいましたけれども、空席というのは結構あるんですか。

名古屋委員：前田先生が特に専門だと思うんですけども、もちろんあると思います。

金山委員長：空席を埋めるということを考えればいいわけですよ、1つには。そうする

と、例えばね、インバウンドということで照らし合わせると、ロンドンでは、劇場ではなくて、劇場からちょっと離れたピカデリーにボックスを設けて、それで当日券をディスカウントで販売していますよね。あれって結構観光客は買いやすい。だから、何かああいうボックスを設ければ、それなりにインバウンドの対策にはなるんじゃないかと思うんですが。その辺はいかがですかね。

名古屋委員：後で前田先生に補足していただきたいのですが、チケットボックスについてはやりたいという声はずいぶん前から出ています。ですが、いろんな興行主がいらっしやる中で、同じ条件でそこに集積して売るというシステムをつくるのが現段階で日本はうまくいっていないくて、本当はそれができれば一番いいとみんな思っているのにできていないという状態ですね。

前田先生に、御専門だと思いますので補足修正をお願いします。

前田委員：名古屋先生のおっしゃるとおりで、今の舞台芸術業界のチケットの販売方法ですと、各主催団体がチケットを持っております、そのチケットを例えばいろいろなチケットプレイガイド会社さんに配券、チケットを預けて、直前になるとそれをまた返券に戻してやるという形なので、どうしても当日さっとこれを見たいというときにチケットをプレイガイドとかインターネットから買えないというような状況なんです。

金山先生がおっしゃったように、ロンドンのピカデリーサーカスとかそういったところにあるチケット、で当日のチケットを安く売るといったことができないかということで舞台芸術業界全体として取り組んでおまして、チケットの共通在庫という考え方で。ただ、これに関しては、既にある大手さんのプレイガイド会社さんとのいろいろな協力が必要なのですが、皆様やはりそれぞれ御自身の業務があるので、そことの兼ね合いで、期間限定でもいいので、例えばいわゆる国際フェスティバルなどのその期間だけでもそういったことが取り組めないかなというところですよ。

金山委員長：イギリス、もう僕なんか2008年に在外研究で行ってましたけれども、あれはとても便利でした。あの当時、多分もっとその以前からなんですけれども、やられていて、何で日本でできないのか、疑問なんですけれども。その業界のやっぱり壁のようなものがあるということなんですか。

前田委員：はい、まだまだ海外には遅れを取っているような感じですよ。

井原委員：東京芸術劇場も文化会館も独自のチケット販売のシステムは持ってないのでしょうか。

前田委員：お持ちですね。

井原委員：お持ちではある、にもかかわらず。

名古屋委員：なので、もしかしたら都立の施設、ホール2つしかないですけども、そこだけとかだったら可能なのかもしれないですよ。

井原委員：私はときどきウィーンに行ってオペラ座でオペラを観るのですが、開演の二、三時間前ぐらいにホームページ開けて待っていると、ポンポンポンとチケット戻ってくるの

が分かるんですね、それでパッと買ってさっとう行くというようなことができるので、当日券という考え方をもう少し観光客向けのサービスとして定着させるといいのになとは思っていますね。

金山委員長：そうね、ウィーンなんかは確かにそうですね。

名古屋委員：海外ではロンドンもニューヨークも、どこもそうなってるので、本当はそれができたらいいんだろうなと思います。記憶があいまいですが、東急が一時、自社のホールだけかもしれませんが、チケットボックスがあったように思いますが、いまは無いのでしょうか？

前田委員：そうですね、それは多分東急さんだけの公演なのかもしれないですね。

井原委員：そうですね。

金山委員長：どうもありがとうございます。

ちょっとここの次元の話じゃないということですね。それは前田さん方、どうぞよろしく、業界のほうで善処してください。お願いいたします。

さて、それでは、二次評価のほうに移りたいと思いますので、事務局のほうから御説明をお願いいたします。

まず、東京文化会館からですね。

知花課長：まず、文化会館でございます。文化会館、資料2を御覧いただければと思いますけれども。管理の状況、管理の実施状況、財務の状況、どちらも皆様から○をいただいております。

事業の効果につきましては、事業の実施状況については皆様から◎、運営の実施状況については◎と一部の方から○をいただいております。施設サービスの実施状況につきましては、◎と○を同数いただいているところでございます。

方針と目標の達成状況につきましては皆様から○をいただいております、総合評価としましてはAを頂戴しております。

特記事項としましては、今後取り組むべき点としまして、障害のある方のために、完全なバリアフリー対応が難しい場合は、追加の誘導員を配置するなど、ソフト面でのさらなるサービス向上等に取り組んでほしいということで、先ほど来ハード面の対応がなかなか難しい場合にはこういったソフト面での対応を工夫してほしいというような点を御指摘いただいております。

以上です。

金山委員長：ありがとうございます。

それでは、どのように調整していくかということなのですが、昨年度と同じということで、多数決ということでそれぞれの項目を見ていきたいと思っております。ただ、少数の方の御意見も大変貴重なものですから、少数の方の御意見もお聞きするというので、それぞれ項目ごとに調整していきたいと思っております。

まず、管理の状況については、これは皆さん○ということですので、実施状況、財務の

状況、これは○ということにいたします。

それから、事業効果につきましては、実施状況については皆さん◎、そして運営の実施状況については、井原委員が一人○ということになります。いかがですか、井原委員、コメントいただければと思います。○でなきゃいけないのか、いや、◎に近い○なのか、その辺ちょっと御説明いただければと思います。

井原委員：私は一次評価を参考に致しました。一次評価に◎が無いのに私が◎つけてよいか、少し躊躇しました。

私もSNS等拝見しておりますが、アップされている写真などを拝見するに大変分りやすく、かつ美しく発信するところを心がけておられるなど感じています。事業運営も大変な中で多忙さにかまけて手抜きをするということなく、広報に対してきちんとポリシーを持って運営されているということがよく伝わってきますので、皆様がここを◎にされるということであれば、私もそれに異存ございません。

金山委員長：ありがとうございます。

では、◎ということにさせていただきます。運営の実施状況については◎です。

では、続きまして、施設サービスの実施状況、これは◎と○が半々ということになっておりますが、まずこの辺については専門委員の名古さんのほうからちょっと御説明いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

名古委員：私は○にしました。特に悪いところもないですが、◎にするほどのこともなかったということです。あと、「音脈」についてはこの数年同じことを毎回書いているんですけども、紙媒体だから駄目ということではなくて、紙媒体にするんだったら紙媒体の特性を生かしたような内容に変えたほうが良いなと思っています。公演スケジュールはもう紙である必要全くないので、むしろ知識欲を駆り立てるような内容だとか、保存したいと思うような内容とか、何かそういうふうなものに変えていったほうが良いと思います。表紙のデザインや全体のテイストはすごく好きなんですけれども、掲載内容の方向性は買えても良いのでは？と私は思っています。そういう意味もあり、私は○にしました。

金山委員長：ありがとうございます。

前田委員、いかがですか。

前田委員：そうですね、私も◎ではなく○にさせていただいたんです。◎で駄目なのかと言われてしまうと決してそういうのではないんですけれども、施設サービスということで、これに◎をつけるということはかなりな高評価になる。ただ、施設サービスは常に課題があるものでもありますし、非常に取り組まれていること、いろいろ多岐にわたってやられているのももちろん△ではないですと、そういったところで◎をつけるところまではちょっといかなかったかなというところでした。

金山委員長：ありがとうございます。

井原委員は◎ということで、その辺の理由はいかがでしょう。

井原委員：やはり私は先程芸術劇場のスタッフさんに質問させていただいたんですけれど

も、公共ホールのミッションとしてアクセシビリティが最近とても重要視されている中で、来館されるお客様に対してきちんと満足を提供できるサービスをされているようにお見受けしたので◎をつけさせていただきましたが、皆様が「まあそれは普通でしょう」「当たり前でしょう」というお考えであれば、ここは○でも異存ありません。

金山委員長：ありがとうございます。

私も同意見ですので、○ということにしたいと思います。

どうもありがとうございます。

方針と目標の達成状況、これは皆さん○ということになります。

総合評価につきましてはAということで、これは変更なしということによろしいですか。

(「はい」と声あり)

その他特記事項、今後の取り組むべき点、これはこちらでよろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

はい、ありがとうございます。

それでは、続きまして、東京芸術劇場について、事務局から説明をお願いいたします。

知花課長：資料2、芸術劇場でございますけれども、管理の状況、こちらどちらも評価が割れているような状況でございますけれども、管理の実施状況は△と一部○の評価をいただいております。財務の状況につきましては、○と一部の方から△の評価をいただいております。

事業効果、事業の実施状況につきましては、皆様から◎をいただいております。運営の実施状況、こちらは○と一部の方から◎を頂戴しております。施設サービスの実施状況については皆様から○、方針と目標の達成状況も皆様から○で、総合としまして皆様からB評価をいただいております。

特記事項、今後取り組むべき点としまして、国際的な創造・発信の中核を担う劇場として、今後東京芸術祭等においても、上質な公演の実施を期待するという事で頂戴しております。

以上でございます。

金山委員長：ありがとうございます。

それでは、先ほどの財務の実施状況、私が○ですが、これは△に近い○ということですので、△にさせていただきます。

そして続いて、財務の状況、これは私が△ですが、先ほどの松本委員の御説明だと、補助金の減少はこれもう見込まれていたということなので、収支には影響がなかったということですので、○にしたいと思います。ということで、財務の状況については○ということになります。

続いて、事業の実施状況については◎、皆さん共通しております。

運営の実施状況については、これは前田委員が◎ということになりますが、前田委員、ちょっとコメントいただければと思います。

前田委員：運営の実施状況の評価項目としては4つありまして、休館日及び開館時間、そして都及び関係機関との連携協力、そして地域連携、そして広報プロモーション。私はその中でも特に広報プロモーションで、ホームページやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。特にその中でも東京芸術劇場さんはXのフォロワーが10.2万、インスタは2023年4月に開設してから既に2,927人、ユーチューブチャンネルは5,150人と、他の公共劇場や民間の劇場に比べても特にXのフォロワー数はもうトップクラスかと思っております、そののちをちょっと評価させていただいた次第です。

ただ、全体を見てこの1、2、3、4ということで、SNSのほうだけを私はピックアップして評価したような形になりましたが、全体的に見て○ということでも異論はございません。

金山委員長：ありがとうございます。

井原委員、いかがですか、○でよろしいですか。

井原委員：はい、私も○でよいかと思います。

金山委員長：では、このところについては○ということで統一させていただきます。ありがとうございます。

続いて、サービスの実施状況、これは皆さん○ということで共通しております。

最後に、方針と目標の達成状況、これも皆さん○ということになります。

最後、特記事項としては、今後の取り組むべき点、先ほど事務局から説明があったとおりということになります。

総合評価としてはBということになりますが、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

ということで、以上、二次評価についてはこのような形になりました。

名古委員：1つ、井原先生と前田先生にお聞きしたいのですが、東京芸術劇場の稼働率が異常に高いと思ったのですが、稼働率が90%後半で、この稼働率で回せるものなののでしょうか？大きくはないものの、事故が起きているということを鑑みると、回っていないのではないかと感じましたが、どう思われますか。稼働率についてご教示ください。

井原委員：回し過ぎという御意見でしょうか。

名古委員：この稼働率で回すのはすごく大変で、全体として人的リソースが足りず、事故が起きたのかもと思ったのですが、関係ないでしょうか？

金山委員長：お願いします。

前田委員：前田です。

劇場の稼働率につきましては、いろいろな実は計算方法がございまして、例えば細かく言えば1日のうち午前、午後、夜の3ブロックに分けて、それを1年365日×3のうち何ブロック使ったかというような現実的な考え方もあります。芸術劇場さんに関してはたしかいわゆる保守点検、メンテナンス日とか休館日を除いた中でのたしか稼働率の計算だったかと思えます。そして、1日のうち午前、午後、夜、1ブロックでも使えばその日は使わ

れたというような稼働率の計算だったかと思うので、恐らく非常に高い稼働率、これ自体もちろん素晴らしいことですし、それに異論つける気はないんですけども、割と心配までは至らないのかもしれないなとは思っております。もちろん人員とかそういったものはたくさんいらしたほうがいいのかと思います。

名古委員：分かりました。ありがとうございます。人が足りないという話は今日も出ていましたが、この稼働率も1つの要因なのかなと思ったので質問させていただきました。

ありがとうございます。

金山委員長：ありがとうございます。

それでは、最後に総評ということで、それぞれ委員の皆様方からお一人ずつ、東京都に対する御意見あるいは都立文化施設全般について一言ずつコメントをいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、松本委員からお願いいたします。

松本委員：先ほど委員長さんから質問があったこととかぶるんですが、昨日の総評ともかぶってしまいますが、コロナ禍においてかなりホールは苦しんでいたという状況から、コロナ後になって状況が変わってきたということでございますが、経費面ではかなり努力をされており、結果的に決算では両ホールとも黒字になったということでございます。

ただ、その黒字幅も何億ももうかっているということではなくて、数千万ですので、ちょっと何かがあればすぐ赤字に転落するようなレベルだと思っておりますが、ただ、黒字が出るのであれば、設備投資等、そういった人的投資も含めて考えていかれるのが、館に対してはそういうことをするのがよろしいかと思えますし。都に対しても、黒字が出たからすぐ予算削減ということではなくて、ある意味館の独自性を尊重した予算配分を行っていたいただければと思います。

以上です。

金山委員長：ありがとうございます。

では、続いて名古委員、お願いいたします。

名古委員：東京芸術劇場も東京文化会館も本当に素晴らしいホールで、演目も素晴らしいものを集めておられると思っております。そして東京は文化の集まってくるまちなんだなというのをすごく感じます。

当局は、その文化・芸術を求めて日本国内だけではなく、世界中から人が集まってくる観光都市であり、それが本当に誇らしいと思っております。

今後は、民間の劇場・ホール、美術館・博物館も含めた横連携で文化・芸術を求めて東京にいらっしゃる観光客を面で取っていくようなことを東京都がリーダーシップを取ってやっていただきたいと思えます。もうそういった次のステップに来ているのかなと私としては感じております。

以上です。

金山委員長：どうもありがとうございます。

それでは、井原委員、お願いいたします。

井原委員：今名古屋委員から、民間の劇場との連携をという御指摘があったかと思います。東京芸術劇場は最近、民間の梅田芸術劇場と連携があるのが、関西にいと見えてきます。梅田芸術劇場にも少しお話お伺いすると、やはり東京芸術劇場でクリエイションをして、それを梅田芸術劇場に持ってくるというような流れがあるようです。特にコロナ以降に色々な連携をするようになって、コネクションが強くなったおかげだというようなことも伺いました。それが一つの事例となって、全国に広がる可能性もありそうですね。

ほかにプラスアルファでお伝えするとするならば、財団の中にアーツカウンシル東京があるという状態になりましたよね。先ほど芸術劇場のお話をお伺いしたら、鑑賞サポートのやり方を地方に伝授する際にアーツカウンシルからちょっとサポートをいただいたとのコメントがあったので、そのような形でアーツカウンシルが財団の中にあるということのメリットがもっと生かされてくるといいなと思いました。やはりアーツカウンシルは今はまだ、一般の人にとっては、何をしてるのか分かりにくい、という組織体なので、注目されやすい東京からこうあっても良いのではないかという提示を地方のアーツカウンシルにさせていただけるといいなと思っています。アーツカウンシルもただ事業を必死になってこなす、というようなことをやってしまうと、1施設が事業を行うことと変わらない状況になってしまうと思うので、アーツカウンシルに関しては横をつなぐような視野を持った活動をする中で、東京文化会館や東京芸術劇場をサポートしていただきたいです。またさっきおっしゃっていたようなインバウンド向けの事業に関してはアーツカウンシルがむしろ牽引していくような立場でいろんなサービスを提供できるようになるといいんじゃないなと思って見ております。期待しております。

以上です。

金山委員長：ありがとうございます。

それでは、前田委員、お願いいたします。

前田委員：東京文化会館も東京芸術劇場さんも、ようやくこのコロナの分類見直しを受けて昨年からようやく正常な運営をし始めてくることができたなと思っております。

「東京文化戦略2030」という東京都の掲げる大きな方針に従って、特に両劇場がこのいわゆる拠点、東京都におけるハブとなる劇場となっていくためには、各劇場、館、個々の力だけではやはり足りないのかなと。それはやっぱり東京都との連携も必須となってくると思います。また、民間との連携というのも必要になってくると思いますので、これからそういったところを課題として取り組んでいければいいのかなと思っております。

金山委員長：ありがとうございます。

それでは、私のほうからですが。1つは文化会館につきましては、これも毎回出ますけれども、施設の老朽化問題というのがあって、これは東京都のほうでもいろいろと今後の修繕等対策を考えていらっしゃると思います。そこについては施設の活用というか利用というのを最大化を図りながら適正なところでの老朽化対策というものをしていただきたい

というふうに思います。

先ほど名古屋委員のほうからもお話ありましたが、特にトイレの問題というのはやはりかねてから、私も一時話題にしたことがありますけれども、その対応ということ、特に女性がいろいろとやはり不便を来しているのも、その辺のところの兼ね合いを踏まえて対策を取っていただきたいというふうに思います。

それからチケットのことについて先ほど話題にしました。例えば東京文化会館の場合には若手の育成のコンサートが小ホールで頻繁にやられていますが、多分チケットは完売はしていないんでしょうね。自前でチケットの取扱いをしているのであれば、上野公園にボックスを設置して、そこで当日券のディスカウント販売が可能であれば、インバウンドばかりではなくて、年配の人ばかりではなくて若い人たちもそこをキャッチしてくれるとよいですね。鑑賞者の育成ということにもつながるのではないかと思います。

私のほうからのコメントは各論的な話になりましたけれども、以上でまとめさせていただきます。

本日はいろいろとありがとうございました。

それでは、事務局のほうにお返しをいたします。よろしく申し上げます。

知花課長：本日は皆様長時間にわたりまして御議論いただきまして、どうもありがとうございました。

また、貴重な御意見も多数いただきましたので、東京都として、各館、歴史文化財団本部にも共有して、今後の運営のさらなる改善につなげていければと思っております。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和5年度東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者評価委員会（ホール部会）を終了させていただければと思います。

本日はどうもありがとうございました。

午後4時43分閉会

以上